



## 私の夢—紺碧の空の下、 永遠に楽しく暮らしていくこと

潘 起 玉  
PAN QI YU

一日の仕事が終わった。今日も疲れた。顔をあげて空を見上げる。紺碧の空を見て私は笑顔になる。懐かしい子どものころ、雲南省に住んでいたころの記憶がよみがえった。

父と母は田畑で仕事をし、私は近くに座って空を見ている。近寄ってきた母が「玉、あなたの夢は何?」と尋ねる。私は指で空をさし、「紺碧の空の下、永遠に楽しく暮らしていくこと」と答えた。あの時私は8歳だった。

今私は日本にいる。昨年9月、生活のため美しい故国に別れを告げた。愛するふるさとを離れた私は、周さんと一緒に渥美の伊藤家に来た。ここに来る前、少し心配なことがあった。私は世渡りの経験が無いけれど、もう一人の研修生と一緒に伊藤の家族と仲良く付き合うことができるだろうか。伊藤家はどんな家族だろうか。ここで何年仕事ができるだろうか。期待と不安でときどきした。

秋から春まで、キャベツを植えて、収穫してトウモロコシを植え、またたく間に5月だ。仕事で疲れることがある。でも苦しい感じは全然無い。私たちが外国で仕事をするの簡単では無いが、私と周さんは姉妹のようにお互いを思いあって生活をしている。伊藤の家にも慣れてきた。

おじいさんが昔の生活の話をしてくれる。私はそれを聴くのが好き。寒い冬、おばあさんがいつも温かいお汁粉を作ってくれる。お母さん

は私が日焼けをしないようにいつも帽子を直してくれる。髪の毛を編んできれいにしてくれる。お父さんがいろいろ農業知識を教えてくれる。そして私の頭をなで、たくさん勉強しなさいと話す。私はお父さんの娘と同じ。お前はまだまだ若いから、しっかり学んで日本語検定の級をとって、中国でよい仕事に就きなさい。私は頑張って毎日日本語を勉強している。絶対中国に帰る前に級をとる。

20歳の誕生日、お母さんと一緒に誕生の歌を歌った。50年後の私たちについて談論した。50年たっても私は忘れない。空の下、私たちの楽しい笑い声が響いている。

私は日本の生活で一度泣いた。すべては誤解が原因だったけれど、私は苦悩し、楽しく働くことができなくなった。しかし皆私に寛容してくれた。失望せず激励してくれた。お父さんは肩を抱いて、お母さんは私の涙を拭いてくれた。誤解も苦悩も失望も、同じ空の雲。時時空をおおい隠すけど、雲は散る。雲が散った後の空はとても美しい。

私は中国の両親に日本の家族を紹介したい。一緒に生活し、一緒に仕事をしながら、私は家族の仲間になったと感じた。幸福と楽しさをもたらした。私は一人の研修生だけど、日中友好の橋渡しになりたい。

私はこの仕事と勉強が好き。ここでの生活のすべてが私の夢の実現を手助けしてくれている。もう一度空を見る。今夜も星がきらきらと輝いている。私には自信がある。明日の朝カーテンを開ければ、変わらず美しい紺碧の空が見えるだろう。

・区 分 研修生  
・国 籍 中国  
・職 種 耕種農業  
・受入れ企業 伊藤 成  
・受入れ団体 愛知みなみ農業協同組合